

第1章

第4章

1 文学的文章 (1) (隨筆)	4
2 文学的文章 (2) (隨筆)	8
3 説明的文章 (1)	
4 説明的文章 (2)	
13 文学的文章 (6) (小説)	
14 説明的文章 (6)	
15 詩 (2)	
16 漢字・語句 (2) (音読みと訓読み／熟語の組み立て)	
12 漢字・語句 (1) (漢字の成り立ち／部首／画数／筆順)	44
11 詩 (1)	40
10 説明的文章 (5)	36
9 文学的文章 (5) (隨筆)	32
8 説明的文章 (4)	28
6 文学的文章 (4) (小説)	24
7 説明的文章 (3)	20
5 文学的文章 (3) (小説)	16
17 文学的文章 (7) (隨筆)	
18 説明的文章 (7)	
19 短歌・俳句 (1)	
20 文法 (1) (ことばの単位)	
21 文学的文章 (8) (隨筆)	
22 説明的文章 (8)	
23 短歌・俳句 (2)	
24 文法 (2) (文節相互の関係)	

第2章

13 文学的文章 (6) (小説)	
14 説明的文章 (6)	
15 詩 (2)	
16 漢字・語句 (2) (音読みと訓読み／熟語の組み立て)	
12 漢字・語句 (1) (漢字の成り立ち／部首／画数／筆順)	60
11 詩 (1)	56
10 説明的文章 (5)	52
9 文学的文章 (5) (隨筆)	
8 説明的文章 (4)	
6 文学的文章 (4) (小説)	
7 説明的文章 (3)	
5 文学的文章 (3) (小説)	
17 文学的文章 (7) (隨筆)	
18 説明的文章 (7)	
19 短歌・俳句 (1)	
20 文法 (1) (ことばの単位)	
21 文学的文章 (8) (隨筆)	
22 説明的文章 (8)	
23 短歌・俳句 (2)	
24 文法 (2) (文節相互の関係)	

第3章

13 文学的文章 (6) (小説)	
14 説明的文章 (6)	
15 詩 (2)	
16 漢字・語句 (2) (音読みと訓読み／熟語の組み立て)	
12 漢字・語句 (1) (漢字の成り立ち／部首／画数／筆順)	98
11 詩 (1)	94
10 説明的文章 (5)	88
9 文学的文章 (5) (隨筆)	84
8 説明的文章 (4)	
6 文学的文章 (4) (小説)	
7 説明的文章 (3)	
5 文学的文章 (3) (小説)	
17 文学的文章 (7) (隨筆)	
18 説明的文章 (7)	
19 短歌・俳句 (1)	
20 文法 (1) (ことばの単位)	
21 文学的文章 (8) (隨筆)	
22 説明的文章 (8)	
23 短歌・俳句 (2)	
24 文法 (2) (文節相互の関係)	

第7章

25 文学的文章 (9) (隨筆)	102
26 說明的文章 (9)	108
27 詩 (3)	114
28 漢字・語句 (1) (類義語・対義語)	118
29 文学的文章 (10) (小説)	120
30 説明的文章 (10)	126
31 詩 (4)	132
32 文法 (3) (文の成分)	136
33 文学的文章 (11) (小説)	140
34 説明的文章 (11)	146
35 古典 (1)	152
36 漢字・語句 (4) (ことわざ・慣用句・四字熟語)	156

第10章

37 文学的文章 (12) (小説)	158
38 説明的文章 (12)	166
39 古典 (2)	172
40 文法 (4) (品詞)	176
付録..漢字練習1	180

第1章

1 文学的文章 (1) (隨筆)

テーマ 話題をとらえる

文学的文章とは、作者が自由に想像した世界や、主観的な思い・感想などを表現することを目的とした文章のことです。文学的文章は、小説（物語）と隨筆に分けられますが、ここでは隨筆の読み取りの基本を学びましょう。

- 隨筆とは…あるテーマや世の中の出来事、筆者自身の体験や見聞きしたことなどについて、感じたことや思ったことを書きつづった文章のこと。隨筆は自由な形式で書かれるので、説明的文章に近いものから、旅行記や自伝、小説のような形で書かれたものまであり、またあつかわれる題材もさまざまです。

1 隨筆の話題のとらえ方

隨筆では、次の点に注意して、筆者が話題としているテーマや出来事をおさえることが基本です。

① テーマをおさえる

隨筆では、導入（前置き）にあたる部分に、筆者が何について述べようとしているのかが示されることがあります。また、文章中でくり返し使われている言葉は、話題に深い関わりがあることが多いと言えます。これら点に注意して、筆者が何について述べようとしているのかをおさえましょう。

例文

長い歴史の中で、桜ほど日本人に愛されてきた花はあるだろうか。

今でも桜の季節ともなれば、数多くの人たちが花見の名所へとつめかけ、その様子が連日テレビのニュースをにぎわす。日本人の桜への愛は今も昔も変わらない。
ただ一口に桜といっても、ソメイヨシノ、シダレザクラ、ヤマザクラ、ヤエザクラ……と、その種類はさまざまだ。中でも私が好きなのは、ヤマザクラである。

実は先日、年來の願いがかなつて、そのヤマザクラを見に奈良県・吉野山を訪れる機会があつた。四月の頭のことである。

吉野山が古来よりヤマザクラの名所として名高い土地なのは広く知られるところであるが、実際に日にしたそれは、まさに聞きしにもまさるものなのであつた。

隨筆では、導入（前置き）にあたる部分に、筆者が何について述べようとしているのかが示されることがあります。また、文章中でくり返し使われている言葉は、話題に深い関わりがあることが多いと言えます。これら点に注意して、筆者が何について述べようとしているのかをおさえましょう。

例文の設問例

- この文章は何について述べられていますか。 → 答えは「桜」
- この文章は、筆者のどのような体験を話題にしていますか。

→ 答えは「四月の頭に、奈良県・吉野山に桜を見に行つた」という体験

② 題材となる具体的な出来事をおさえる

「いつ・どこで・だれが・どうした」といった基本的な要素をおさえて、話題を読み取っていくことが大切です。文章中で語られる筆者の体験や見聞きしたことは一つとは限らず、テーマに沿つたものが複数取り上げられることもあります。

〈宮下正美「自然の深い知恵に学ぼう」より〉

◀ 解法のポイント

(1) **一話題** この文章は、筆者自身の体験した次の二つの出来事について書かれています。

第一～三段落：母が「私」に、ニワトリのヒナが卵からかえるのを見せながら教えてくれたこと。

第四～六段落：父が「私」に、カイコのマユを見せながら教えてくれたこと。

それぞれの出来事が書かれている段落から、**①**・**②**に入る内容をどうえましよう。

(解答) ① (例) 自分の力でカラを割つて外に出てくる

② (例) 余計な世話をしてはならない

(2) **一話題** 一つ目の出来事と、二つ目の出来事に共通している、この文章のテーマをどうえます。母が「私」にしてくれた話の「自分の力」ということばが、最後のまとめの部分でも再び使われていることに注目しましょう。

(解答) 自己の力

- (1) この文章は、どのような出来事について書かれていますか。それを次のようにまとめた場合、**①**・**②**に入る最も適切なことばを、それぞれ本文のことばを使って書いて答えなさい。
- ・母が、**①**ことがニワトリのひなにとつての最初のつとめだと教えてくれたこと。
- ・父が、カイコガには**②**と教えてくれたこと。

- (2) この文章に題をつけるとすると、どのような題が適切ですか。次の□に入る最も適切なことばを、本文中から四字で書きぬいて答えなさい。

□で生きることの大切さ

確
認
問
題

1 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

(1)

話題

本文の話題を、四字で書きぬいて答えなさい。

〈庄野潤三「春の花・うぐいす」より〉

- イ うぐいすの声を喜んだ自分が情けない。
ウ うぐいすに思う存分鳴かせてやりたい。
エ うぐいすの鳴き声をもっと聞きたい。

(4)

主題

——線③「ふとんで口をふさいだ」とあります。このときの「私」の気持ちとして適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

(3)

内容理解

——線②「目ざましい勢い」が最もよく表されている一文を本文中から探し、その最初の八字を書きぬいて答えなさい。

(2)

内容理解

——線①「ひどくはない」について、次のそれぞれの問い合わせに答えなさい。
□(1) 「ひどくはない」の意味が「ひどくはない」というのですか。それを次のようにまとめた場合、□に入る最も適切なことばを書いて答えなさい。
〈近くの山ややぶが無くなつて、□こと。〉

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(注) プラハ＝現在のチェコ共和国の首都。

(1) **話題** — 線①「それ」が指している、本文の話題にあたる筆者の体験を指すことばを、本文中から九字で書きぬいて答えなさい。

〈先生がせつかく熱心に指導してくれたのに、自分が□から。〉

A vertical grid diagram consisting of a solid vertical line on the left, a dashed vertical line in the center, and a solid vertical line on the right. The area between the dashed lines is divided into four horizontal sections by three dashed horizontal lines. The bottom section is a rectangle.

内容理解 — 線③ 「言葉をさえざる」の「」での意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 先生がとつぜん話すのをやめてしまふ

ア 先生がとつぜん話すのをやめてしまふこと。

イ
先生が私の話に割りこんで、話し始めること。

ウ 先生が私の話とは異なる内容の話を始めること。

(4) 内容理解――線④「それ」が指していることばを、本文中から五字で書きぬいて答えなさい。

で書きぬいて答えなさい。

〈黒沼ユリ子「バイオリンと歩むなかから」より〉